

専門書

教育関係者、
行政・武術研
究者向け

講道館

格闘武術・柔術柔道書集成

民和文庫研究会編

企画・編集責任者

中村民雄（福島大学名誉教授）

石井隆憲（日本体育大学教授）

第Ⅱ回

大正期の護身術・柔術柔道書

全七巻

大正期に入るとテニス・陸上競技・水泳など、競技スポーツ界で女性が活躍するようになり、体育・運動熱が一段と高まった。その反面、武術・武道の世界では競技化を諫め、形を応用した体育・護身術として行われた。それは、学校・警察から海外へも普及していった講道館柔道とて例外ではなかった。

このシリーズ第Ⅱ回配本は、大正期に刊行された警察の捕手術や護身術、古流柔術や隆盛を極めていった講道館柔道関連の貴重な資料をテーマ別にまとめて提供する。

『大正期の護身術・柔術柔道書(全七巻)』の刊行について

民和文庫研究会代表(福島大学名誉教授) 中村 民雄

明治三十七・八(一九〇四・五)年の日露戦争後、欧米列強の仲間入りを果たしたわが国は、これまで財政的に大きな負担を強いてきた地方の農村を立て直し、国家の財政的・経済的・人的基盤として新たな行政町村に再編(これを「地方改良運動」という)することが急務であると考えられた。また、明治四十一(一九〇八)年に発布された「戊申詔書」を合図に、神社を一村一社に合祀し地域住民との結合を図る国民教化運動も展開されていった。

こうした地方改良運動は、やがて伝統を見直し、新しい民族文化として再構成する動きへと発展していった。そうした機運を象徴するのが、明治四十二(一九〇九)年六月二日に開館した大相撲の常設館「国技館」である。この常設館を「国技館」と命名したことにより、相撲は神事から国技へと変貌していったように、体育・スポーツ界にも大きな変化と刺激を与えた。国技館の開館と相前後して五月三日には、嘉納治五郎によって創設された講道館が私設道場から財団法人となり、文字通り日本を代表する柔道へと発展していった。国技館開館の一日後、六月三日には大日本武徳会も財団法人となった。このように明治四十二年という年は、伝統や在来武術が国民文化・国民体育へと衣替えした年でもある。ちなみに、明治四十四(一九二二)年に設立された大日本体育協会が財団法人になるのは、昭和二(一九二七)年のことであった。

また、講道館は早くから「柔道」と称してきたが、在来武術である「撃剣・柔術・弓術」など大日本武徳会の傘下においては「術」と称していた。これに変化が現れるのは、大日本武徳会の副会長に就任した西久保弘道が「武道の稽古は神聖にして侵す可らざるもので、「修身の講話を聞く様なものでなければならぬ」「武なるものは決して技術ではないと云ふ観念を明ならしむる」ためにも、「武術」ではなく「武道」でなければならぬ」と、大正八(一九一九)年八月二日、武術専門学校は「武道専門学校」と改称した。同時に、「撃剣・柔術・弓術」の呼称も「剣道・柔道・弓道」と改称し、これらの総称を「武道」と称するようになった。残された槍術等は武術、もしくは古武術と称し、伝統武術として演武中心に保存が図られていった。

このように、いち早く財団法人化した講道館は、柔道をとおした体育振興と文化活動を展開するため、大正四(一九二五)年一月には今日に続く雑誌『柔道』を創刊しはじめた。また、大正十一(一九二二)年一月には講道館文化会を創立し、「本会は精力最善活用に拠つて人生各般の目的を達成せんことを主義とす」ではじまる宣言と、「精力の最善活用は自己完成の要訣なり」「自己完成は他の完成を助くることに拠つて成就す」「自己完成は人類共榮の基なり」という綱領を発表した。これが柔道の究極の目的をしめす「精力善用・自己共榮」というスローガンとなっていくものである。こうして欧米スポーツをオリンピック競技大会への参加ということから積極的に採り入れるとともに、在来武術のうち柔道をいち早く世界へ紹介するという双方向の交流を通した国際交流・国際親善が活発化していくのである。

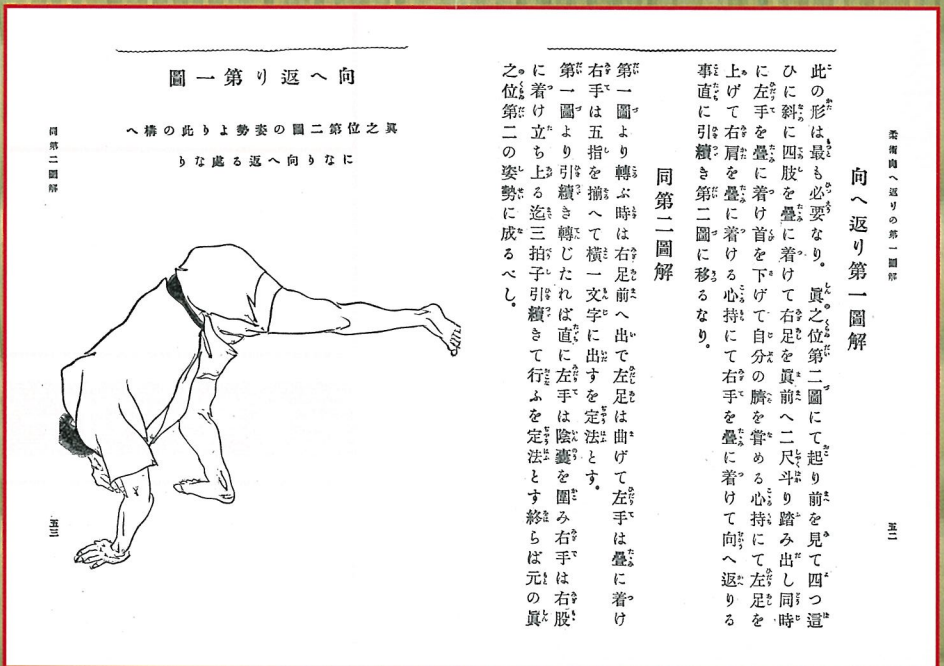
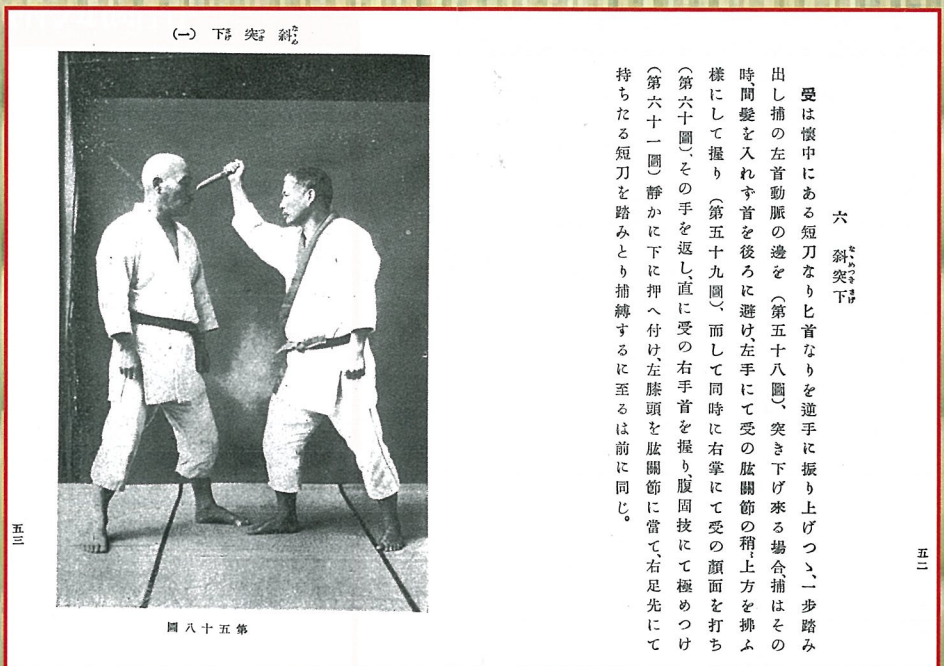


Table with 3 columns: 第一學期, 第二學期, 第三學期. It lists various judo techniques and their descriptions for each semester.

- 第一巻 「護身・逮捕術」
護身術
帝國武道研究会編纂／一九一五年／興成館書店
柔道極意図解奥伝神機活法空手護身術
佐々木高明編／一九二五年／神武館書店
警視庁柔道基本 捕手の形
警視庁警務部規画課編纂／一九二六年／自警会
朝鮮警察柔道全・附捕繩術
岡野幹雄・佐藤完三・阿部文雄／一九二六年／朝鮮警察協会

- 第二巻 「女子護身術」
婦人護身術教範
江夏金太郎／一九一七年／力行館
女子鍊胆法及護身術
小田綱太郎・佐藤完實／一九一七年／東洋出版社
比較研究 女の護身術
横山虎夫／一九一九年／二松堂書店
女子護身法
南郷次郎／一九四四年／旺文社

- 第三巻 「古流柔術」
帝國尚武会会則
野口正八郎／一九二二年／帝國尚武会
柔術修業秘法
野口清／一九二二年／帝國尚武会
懸賞問題 柔術実地活用法
帝國尚武会編纂／一九一四年／帝國尚武会
殺活自在乱捕秘伝 柔術教範
井口義為／一九一六年／山田書店

収録一覧

格闘武術・柔術柔道書集成 第二回

第Ⅰ回 明治期の逮捕術・柔術柔道書 全六巻

尾川 翔大 解説

第一巻 逮捕術・当身活法

定価 21,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-037-3

第二巻 古流柔術(1)

定価 20,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-038-0

第三巻 古流柔術(2)

定価 14,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-039-7

第四巻 講道館柔道(1)

定価 20,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-040-3

第五巻 講道館柔道(2)

定価 19,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-041-0

第六巻 講道館館員名簿

定価 11,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-042-7

揃定価 105,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-043-4

A5 判／上製函入／クロス装／C3337

第Ⅰ回 2019年5月25日刊行

第Ⅱ回 2019年10月25日刊行

第Ⅱ回 大正期の護身術・柔術柔道書 全七巻

小山 凜雄 解説

第一巻 護身・逮捕術

定価 15,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-044-1

第二巻 女子護身術

定価 12,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-045-8

第三巻 古流柔術

定価 18,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-046-5

第四巻 講道館柔道(1)

定価 16,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-047-2

第五巻 講道館柔道(2)

定価 26,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-048-9

第六巻 講道館柔道(3)

定価 18,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-049-6

第七巻 講道館柔道(4)

定価 19,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-050-2

揃定価 124,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-051-9

■次回：第Ⅲ回 昭和(戦前期)の格闘武術・柔道書 全八巻 小山 凜雄 解説 (2020年3月刊行予定)

第一巻 唐手・空手道

第四巻 柔道(1)

第七巻 柔道(4)

第二巻 合気武道・合気道

第五巻 柔道(2)

第八巻 柔道の分派

第三巻 捕手術

第六巻 柔道(3)

体育・スポーツ書集成 好評既刊書 (分売あり／A5判／上製函入／クロス装)

第Ⅰ回 戦後保健体育指導書 全七巻

尾川 翔大 解説 2017年6月25日刊行

揃定価 93,500 円 (税別) ISBN 978-4-87733-983-8

第Ⅱ回 戦後学校武道指導書 全五巻

矢野 裕介・坂本 太一 解説 2017年11月25日刊行

揃定価 66,500 円 (税別) ISBN 978-4-87733-989-0

第Ⅲ回 国民体力向上関係書 全八巻

尾川 翔大・矢野 裕介 解説 2018年5月25日刊行

揃定価 108,800 円 (税別) ISBN 978-4-86670-020-5

第Ⅳ回 明治期体操学校 体育・体操書 全六巻

神田 俊平 解説 2018年11月25日刊行

揃定価 96,000 円 (税別) ISBN 978-4-86670-027-4

